

I 実践

1 研究テーマ

思いやりと感謝の心をもって、幅広い人間関係を築ける児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「ふるさと久慈に誇りをもち、夢に向かって学び合い磨き合う、心豊かな久慈っ子の育成」であり、目指す児童像は、「元気よくあいさつができる子」「友達と仲良く活動ができる子」「根気よく努力ができる子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「自他を大切にし、思いやりの心と助け合いの心をもって活動する子どもの育成」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断と行動ができる子どもの育成」「互いに認め合い、助け合って人のために尽くすことができる子どもの育成」としている。本校の児童は、明るく素直で穏やかである。しかし、互いを認め合い、高め合おうとする意識がまだ低く、積極的に他者とかかわり合おうとする態度もあまりみられない。そこで、心に響く交流や体験活動を通して、一人一人の良さに気づき、自他を大切に思い、感謝の気持ちを持ちながら他とかかわりを持てる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 教育活動全体を通した人権教育の推進

イ ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

2 実践内容

(1) 教育活動全体を通した人権教育の推進

ア 中学校・高校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では、毎朝けやき委員会の児童と教職員が昇降口の近くに立ち、登校してくる児童にあいさつ運動をしている。また、毎月マナーアップ週間を取り入れ、各学年の児童が順番にあいさつ運動に参加していくことで、あいさつの大切さを感じることができるようになっている。さらに、近隣の中学校・高校の生徒やPTAの方々と連携を取り合いながらあいさつ運動を展開しているので、たくさんの人々とかかわりあって生活していることとあいさつの大切さを実感していると考ええる。

イ サンキュー週間の実施

サンキュー週間とは、毎月3～9日の間は進んで「ありがとう」をいう機会にしようという試みである。学校のマスコットキャラクターである「けやっかい」と計画委員会が中心となり、いろいろな人に感謝の気持ちをもって接することを全校児童に呼びかけている。下校時には、○3回◎5回◎10回とありがとうを言った回数に合わせてシールを選び、学年の廊下に掲示してある「ありがとうの木」にシールを貼って一日を振り返っている。

ウ 校内人権学習週間の実施

学期ごとに校内人権学習週間を設け、思いやりと感謝の心を基礎とした人権教育の精神の涵養を図った。1学期は、視聴覚教材を使った人権学習を行った。各ブロックごとの人権教育目標に合わせて教材を選び、視聴前と視聴後に話し合いの時間を設け、ワークシートに振り返りを書かせた。2学期は、人権メッセージや標語、ポスター、習字などの人権作品への応募を積極的に呼び掛けた。特に、人権メッセージは夏休みに家庭に持ち帰って家族と一緒に考えることで、保護者への啓発も図った。3学期は、ナイスハート週間を実施し、友達の良いところを見つけ、友達と仲良く生活することの楽しさや喜びを見直し、助け合うことの大切さに気付くことができるように振り返る機会を設けた。

エ 道徳教育の充実

各学年とも目指す児童像に向けて、道徳の時間と他教科・領域との関連を図って授業実践を行ってきた。低学年では「ふわふわ言葉やちくちく言葉」「届け、わたしのハート」などを実践した。中・高学年ではソーシャルトレーニングを取り入れ、友達への言葉がけや接し方などをロールプレイしたり、いじめや平等・偏見などの教材を取り上げ話し合ったりした。

(2) ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

ア 異学年集団の交流

毎週木曜日に「ゆうゆうタイム」として学級遊びの時間を設定している。月一回程度兄弟学級で遊んだり活動したりする日を設け、外遊びや読み聞かせ、縄跳びの練習、清掃活動などを行っている。

イ 地域の方との交流

1・3年生を中心として、地域の高齢者の方々と触れ合う機会を設定している。昔遊びを教わったり、交流センターを訪問して一緒に活動したりして有意義な時間を過ごした。また、今年度から「久慈小フェスティバル」を開催し、地域のボランティアの方々からいろいろなことを教わる体験学習を行った。学校の教育活動以外で自分の興味のある活動に親子一緒に参加できる取り組みであり、様々な人々とかかわって楽しい交流ができた。

ウ 飼育・栽培活動を通した命の学習

今年度は、「人権の花運動」に参加し、1クラス1プランターの花を種まきから花が終わるまで育てた。児童が育てている花と同じ花の苗を地域の方々にも配布し、学校と地域と共に栽培活動を行った。その他にも、低学年は一人一鉢栽培、各学級では卒業式に向けてプランターでの花の栽培をしている。また、各学級で金魚やメダカも飼育している。命を大切に育てる心を育てると同時に、他者への感謝の心を育てることに役立っている。

3 成果

様々な教育活動全体を通して、児童はお互いを認めたり、助けたり、支え合ったりすることの大切さに気づき、実践することの意義を感じることができた。また、様々な人々と交流し合ったことで、いろいろな人々と触れ合う時の楽しさやどんなことに配慮すればよいのかということに気づいたり、自己肯定感や自己有能感を味わったりした。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものであるが、学習したことを日常生活や家庭・地域でも実践できるようにしていくことが大切である。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことで、互いの信頼関係を構築し、深め、思いやりの心や感謝の心が育っていくと考える。児童の人権意識を高めていくには、教職員や家庭の人権意識を高めていくことが不可欠である。そのために、教職員の人権教育に対する共通理解を図り系統的・計画的に活動できるよう、教職員の研修を深め、家庭や地域と連携しながら人権教育を進めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



人権 DVD を視聴して



届けようわたしのハート



人権メッセージ